

島田正路氏著の「言霊」より 抜粋

その 239

言霊による宇宙とは

最初にお話ししましたように、眼を開けて見る物質的客観的宇宙は、眼の前のミクロの宇宙から、遠い、遠い、膨張し続けると言われる宇宙すなわちマクロの宇宙まで続いています。そしていま私達が地上から真上に真っ直ぐ飛び出して超高速で限りなく飛び続ければ、ちょうど飛び出す時と反対方向から元の場所に帰ってきてしまうことが良く言われます。宇宙は無限ということの概念的神秘がここに考えられるでしょう。

それとは全く逆の方向に、眼を閉じて内なる主観的精神宇宙についていえばどうでしょうか、この広大な主観的宇宙も極めて具体的に要約して考えてみれば、人間の意識に何も起こらないとき、すなわち空なる宇宙そのものの中に、

初めて現われる意識の萌芽であるウに始まり、

アワオエヲエ、ヒチシキミリイニ、イキの先天部分が頭脳の中で働き、

それが後天として具体的形となり言葉として発音され、

その音が空中を飛んで自分または他人の耳に入り、

また頭脳の中に進入して再検討され了解されて先天宇宙に帰り、

記憶として頭脳内に印画されます。

精神宇宙を言霊の立場から最小限に要約すると上記以外のものではないことが明らかに理解されま

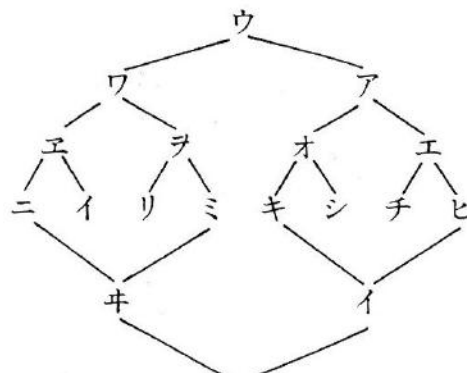
す。大昔の日本人は言霊原理に到達して、この最小限要約の宇宙に起こる精神現象の機能順序を言霊によって表現することに成功しています。詳しいことは後に譲りますが、いまはその作用を表す言

靈の順序を示すことにしましょう。

このとき最初の言靈ウは言靈ン（漢字云）に転化します。ンは意識の運びを意味し、実際にンとは言葉を運ぶものすなわち文字のことです。

その 240 につづく

図 19



先天十七

先名 (あな)

真名 (まな)

神
か 名

真名 (まな)

文字
記録

後天三十三

計五十

タトヨツテヤユエケメクムスルソセホヘフモハヌラサロレノネカマナコ→ン